兵庫県立千種高等学校訪問に伴う報告

１　目　的

学校の現状を視察し、教育活動や学校運営の状況について、現状と課題を把握することで、学校評価・診断能力を養う。

２　日　時

◎　平成２７年６月１３日（土）　９：００～１４：００　文化祭見学
（１２：１５～１３：００　千種小・中学校で給食）

３　参加者

◎　兵庫教育大学大学院　浅　野　良　一　教　授

◎　兵庫教育大学大学院学校教育研究科教育実践高度化専攻学校経営コース２年
高校籍：８名

NO	氏名	学校名
1	伊藤　純一	北海道美瑛高等学校
2	井上　政行	兵庫県立松陽高等学校
3	白川　正樹	兵庫県立有馬高等学校
4	菅生　　宏	鳥取県立八頭高等学校
5	辻　　真吾	兵庫県立西脇北高等学校
6	宮本美枝子	兵庫県立伊丹西高等学校
7	守山　　勝	兵庫県立香住高等学校
8	四田ちさと	山口県立徳山高等学校

兵庫県立千種高等学校訪問に伴う報告書

1　授業（文化祭）の状況

評価基準

・多くの児童生徒が集中して学習に取り組んでいる。
・多くの教員が適切な専門的知識及び指導法を有し、授業は正確に行われている。
・個に応じた指導が適切に行われている。
・教室内は清掃、整理整頓がなされ、掲示物等も適切であり、落ち着いて学習できる環境が整備されている。

指　　標

指標１　説明、板書、発問など、各教員の授業の実施方法は適切か。
指標２　視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の活用は適切か。
指標３　体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
指標４　個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等は適切か。
指標５　少人数授業などにおいて、教員間で協力的な指導がなされているか。
指標６　学級内における児童生徒の様子や、学習に適した環境に整備されているかなど、学級経営が円滑に行われているか。
指標７　コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
指標８　学習指導要領や各教育委員会が定める基準にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導が適切になされているか。
指標９　授業や教材の開発に地域の人材など外部人材を活用し、より良いものとする工夫がなされているか。

［良かった点］

【小規模校の強みを活かすことができている。】

○広い体育館をゆったり使えていた。プログラム構成にも時間的余裕があり、多くの有志生徒に活躍の場を与えることができていた。とても贅沢な行事の組み立て方で、小規模校の強みを活かせている。

【教育機器の有効活用ができている。】

○プロジェクター等の視聴覚機器が、安全かつ有効に利用されていた。

［改善点・方策例］

【来校者の立場に立った展示スペースの在り方を再考する。】

△展示スペースの場所を再考した方がよいと思われる。廊下などの通路スペースでは、人が行き交うため落ち着いてじっくり鑑賞できない。教室の利用や、体育館に展示ブースを設けるなど、別の場所の確保が必要であると考える。

【体育館の非常口を確認する。】

△体育館の非常口が４箇所あるが、一箇所、体育のマットが積み上げられていて塞がっていた。

2　生徒の状況

評価基準

・児童生徒が発達段階に応じ、保護者等とも連携しながら基本的生活習慣等の人格的発達を促す取組が適切に行われている。
・児童生徒が落ち着いて学校生活をおくっている。
・生徒指導体制が整えられ、児童生徒は教員から適切な助言や指導を受けている。

指　　標

指標１　自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるよう適切な指導を行っているか。
指標２　保護者と連携協力して基本的な生活習慣を身につけさせるための工夫がなされているか。
指標３　児童生徒の適性を発見し能力を引き出し、それを発揮できるようにするための工夫がなされているか。
指標４　豊かな人間関係づくりに向けた指導が適切になされているか。
指標５　命の大切さや環境の保全などについて適切な指導を行っているか。
指標６　社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公徳心や情報モラルなど）について適切に指導を行っているか
指標７　規範意識の向上に向けた指導が適切になされているか。

［良かった点］

【文化祭のステージ発表を鑑賞する態度が大変よかった。】

○生徒は全体的に落ち着いた態度で文化祭を鑑賞していた。
○軽音楽やダンスなど盛り上げるところは節度を持って協力していた。
○舞台の演目に真面目に取り組む姿勢があり、観客の生徒も出演者を茶化すことなく舞台を皆で盛り上げようとする意図が見て取れた。
○周囲に迷惑をかけるようなはしゃぎ方をする生徒は見かけなかった。
○ステージ上の生徒と、鑑賞している生徒の一体感が感じられた。

【生徒と教師の信頼関係が感じられた。】

○１年生の演劇では、教師が出演する場面をつくる等、生徒と教師の一体感を見ることができた。
○生徒と教師が親しく話している様子を多くの場面で見ることができた。
○千種の一貫教育を受けた３年生男子に千種高校の魅力は何か尋ねると、「先生と生徒の距離が近い」「勉強のわからないところを丁寧に教えてくれたり、進路の相談によく乗ってくれたり、面倒見がよい先生が多い」と答え~~てくれ~~た。教員に対する生徒の信頼が厚く、安心感を持っていることが感じられた。

【生徒の主体性と責任感が感じられる文化祭だった。】

○舞台発表やプログラムの運営では、幼小中高一貫教育校の上級校生としての節度と責任感が備わっていた。
（芝居の脚本等、小さい子ども等にも配慮した内容であった。）
○模擬店と舞台などの役割を重複してこなすことで、少ない生徒数という環境にも関わらず、盛り上りのある文化祭になっていた。
○発表のみならず、準備・片付けを共同で迅速に行うことができていた。
○展示物は、各コースの学びを形にした作品が並べられていて大変よかった。

【生活規律の定着が図られている。】

○男女とも制服の着こなしがよく、清潔感が感じられた。
○廊下等で出会ったときに、多くの生徒と気持ちよく挨拶を交わすことができた。来校者に対して、自ら挨拶をする習慣が身についていると感じた。

【地域とともにある学校づくりが推進されている。】

○生徒は高校が地域コミュニティーにとって必要不可欠な存在であることを自覚していると感じられた。地域と連携したあらゆる取り組みを行ってきた成果と考えられる。

［改善点・方策例］

【発表中と発表後の切り替えの必要性を確認する。】

△発表後に、演技で使用した小道具や衣装を着用したままの姿が見られ、切り替えが必要だと考える。

【同世代と学びを共創する場を増やす取組を実施する。】

△生徒数が少ないことから、特に学校行事で多くの同世代（高校生や大学生）と学びを共創する「場」が少なくなってしまうことが弱みとして挙げられる。連携型小中高一貫のこれまでの優れた教育活動に加え、ダイバーシティ・マネジメントやキャリア教育の観点から、より多くの高校生や大学生と

「場」を共有する機会を教育活動に創出し、多様性に触れさせたり、体験させることで、グローバル社会に必要な資質を養う。
例えば、進路指導での大学訪問の際、研究室訪問を加える。教育課程に位置づけて大学の学園祭に参加する。他の高校と総合学習を共同で実施（学年単位）するなど。（端的に言うと、広い海を見る機会を１年に１回でも良いので増やしていく）

【生徒個人の目標を高く持たせる取組を実施する。】

△他校と比較すると、生徒が大人しいと感じた。落ち着きや優しさは伝わるが、強い意欲やバイタリティという点でやや物足りなさを感じた。生徒個人の目標をより一層高く持たせて意欲を喚起していくことで、さらに活気のある学校になることが期待できる。

3　教職員の状況

評価基準

・組織的・計画的に校内研修を実施するとともに、学校運営上必要と考えられる適切な校外研修の機会を確保している。
・多くの教職員が、公的・私的を問わず、適切な研修に参加し、専門的知識等の維持・向上に努めている。
・積極的に授業を公開し、授業改善を図る意識が教員に共有されている。

指　　標

指標１　授業研究の継続的実施など、授業改善に取り組んでいるか。
指標２　校内における研修の実施体制の整備状況。
指標３　児童生徒や地域の実態を踏まえ、校内研修の課題が適切に設定されているか。
指標４　校内研修・校外研修の実施・参加状況。
指標５　臨時採用・非常勤講師等の非正規採用教員の資質の確保・向上に向けた取組がなされているか。
指標６　指導力不足教員の状況の把握と対応が適切になされているか。
指標７　日常の教育活動の中で、経験豊かな教職員が若い教職員を指導するなど、ＯＪＴにより資質や指導力の向上に努める環境にある。

［良かった点］

【教職員の協働する場面が見られる。】

○生徒の主体性を尊重し、生徒の実態に即した指導体制が確立しているように感じられた。
○少ない教職員数だが、フットワークが軽く、非常に良く働いていた。
○事務長が来校者の受付をするなど、全教職員が協働している様子が伺えた。
○学校正門に２名の教職員が配置され、来校者に親しみをもって対応していた。
○来校者への物腰が低く丁寧であった。挨拶もしっかりする習慣がついていた。

【生徒や卒業生にしっかりと関わる姿が見られる。】

○卒業生が教職員に気軽に声をかけ、近況報告している様子がみられた。
○教職員が、遅刻した生徒や気分が高揚している生徒に声をかけ、適切に対応していた。
○教職員もステージ発表に参加し、生徒と一緒になって演技をしていた。生徒との関係も良好に見えた。
○教職員も工夫を凝らした模擬店を出店して雰囲気を盛り上げていた。

［改善点および方策例］

【地域とともにある学校づくりを一層推進させる。】

△一部の教職員ではあるが、来校者への挨拶がなく疲れた表情で素通りする様子も見えた。「来ていただいた方への感謝の気持ち」を伝えることの大切さを、全教職員で共有することができればよいと考える。

【教職員の資質能力の向上に向けた取組を一層推進させる。】

△教職員が少ないため一人で多くの分掌を担うことによる多忙化や、教員の大半を占めている新任は約４年で転勤になることで仕事の引き継ぎが難しい等の様々な制約はあるだろうが、若手教員の資質能力の向上については具体的な方策が必要と考える。

4　学校の管理運営等の状況

評価基準

・学校の状況に即した学校として達成すべき重点化された目標が定められている。
・学校評価のための構内組織を整備し、教職員が学校評価の趣旨を共通理解して計画的に学校評価を実施している。
・管理職の適切なリーダーシップの下に、教職員からの信頼を得て、学校全体として教育目標等の達成に向けて努力している。
・主任や主幹教諭が有効に機能するなど学校は適切に組織され、運営されている。
・教職員が能力・適正を生かして協力し、児童生徒とこころの通い合う学校運営を行っている。

指　　標

指標１　児童生徒や学校の実態、保護者や地域の意見・要望等を踏まえ、学校としての教育目標等が適切に設定されているか。
指標２　学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
指標３　校長など管理職や主幹教諭は、教育目標等の達成に向けて、適切にリーダーシップを発揮しているか。また、他の教職員から信頼を得ているか。
指標４　校務分掌や主任制が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制が整備されているか。
指標５　各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理されているか。また、教職員に情報の取扱方針が周知されているか。
指標６　教職員のメンタルヘルスの保持・増進や目標を持った資質能力の向上への支援など、教職員一人一人の能力・適性等を生かした人事管理が十分行われているか。

［良かった点］

【校長の適切で細やかな気配りが見られた。】

○開会式での校長の挨拶の中に、地域の支援に対する感謝と生徒が文化祭を通して成長することに期待する言葉があった。
○校長が、地域や保護者の方が運営されている模擬店等を訪れ、お礼の声をかけている姿があった。
○幼小中高連携を行っていることが、文化祭冊子の学校長挨拶の中で『「Advance（前進）～地域とともに～」を心にして』の言葉に表れている。

【地域との連携が推進されている。】

○学校経営の重点の１つである「保護者や地域と連携して開かれた学校づくりを推進する」について、地域から学校に対して多くの支援をいただける関係にあることを見ることができた。このことが、学校運営の大きな力になっていることを感じた。

【教職員が協力し、生徒のニーズに合った教育活動が行われている。】

○教職員の人数も限られる中で、生徒の様々なニーズに応えられるよう３つのコースを設置している。このことが、中学校や地域住民の信頼を得ることができている一つの要素と考えられる。

［改善点および方策例］

【今回の訪問では分かりませんでした。】

5　施設・設備の状況

評価基準

・耐震化や老朽化対策が完了しているか、少なくとも今後の目途が明らかである。
・学校施設のバリアフリー化を図るなど、障害がある者への一定の配慮がなされている。
・余裕教室や特別教室・多目的教室など、施設・設備が有効に活用されている。
・情報設備、器機を有効に活用している。
・美化や緑化など、学習の場にふさわしい環境づくりが行われている。

指　　標

指標１　設置者と連携し、施設・設備の安全・維持管理のための点検を実施し、必要な改善（耐震化、アスベスト対策を含む）が図られているか。
指標２　設置者と連携し、施設・設備が有効に活用されているか。
指標３　設置者と連携し、学習・生活環境改善のための取組が行われているか。

［良かった点］

【校内清掃が徹底されている。】

○清掃がよく行き届いていて、清潔感を感じた。
○トイレの清掃が行きいていた。来校者にも恥ずかしくない様子だった。
○校内全体が整理整頓されていた。
○清掃が行き届いていた。美化活動の充実が見て取れた。

【学習・生活環境が整備されている。】

○自然環境が豊かで、千種川のせせらぎが心をリラックスさせる環境は、何ものにも代えがたい。
○校舎の耐震化対策が行われていた。
○体育館の、床、壁、ドア、照明器具、暗幕ともに破損がなく、安全な環境が整備されていた。
○これだけ多くの太鼓を備品として学校が所有しているケースは珍しい。太鼓を学校固有の文化として継承できる環境にあると考えられる。

［改善点および方策例］

【安全面から学習環境の見直しを図る。】

△教室の廊下側のガラスが全面擦りガラスになっている。危機管理上の面から改善を検討したい。

【来客者の立場に立った環境整備を図る。】

△来客用の校内案内標識が欲しかった。体育館に行くまでに少し迷った。地域外の来客にも配慮が必要であることを意識すると同時に、学校公開を外部への PR の場として活用する戦略的意識をより一層高めるとよいと考える。

6　保護者・地域住民等との連携協力の状況

評価基準

・学校とＰＴＡ、地域社会が適切に連携し、相互に信頼関係がある。
・地域社会の人材や文化財などの資源を活用している。
・ＰＴＡや地域住民等は、学校への正当な要望や意見に、適切に対応がなされていると感じている。
・学校評価結果等が、ホームページ等を活用して十分に公開されている。
・学校便りなどにより、保護者を主たる対象とする学校の情報の伝達や公開が十分に行われている。

指　　標

指標１　学校運営へのＰＴＡ（保護者）、地域住民の参画及び協力の状況。
指標２　地域住民から寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応しているか。
指標３　学校開放などの実施状況。（オープンスクールの実施等も含む）
指標４　学校評議員やＰＴＡ（保護者）との懇談の実施状況や学校運営協議会の運営状況。
指標５　ＰＴＡや地域団体との連絡の充実の状況。
指標６　地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
指標７　授業や教材の開発に地域の人材など外部人材を活用し、より良いものとする工夫がなされているか。
指標８　地域子ども教室等の放課後対策事業において、事業関係者と教職員間で、必要に応じ、参加する子どもの健康状態等に関する情報交換や、移動の安全確保のための取組等の連携協力が適切に行われているか。
指標９　学校に関する様々な情報が、その想定される受け手に応じて、十分に分かりやすい内容で、かつ適切な分量が提供されているか。

［良かった点］

【保護者・地域との連携に向けた取組が推進されている。】

○文化祭の来場者（10：30 現在　受付で確認）のうち、保護者が 61 名、地域住民が 11 人、卒業生が 15 人であった。保護者の過半数が来場していることから、学校に対する保護者関心の強さがわかった。
○来場者や生徒向けの昼食を調理していた PTA 役員６名に、「千種高校」と「小中高一貫教育」についての印象聞いてみた。その内容についてまとめると以下のとおりである。
「千種高校」について、
・先生と生徒の関係が密で、コミュニケーションが良好である。
・放課後遅くまで勉強の面倒を見てくれる。保護者も何か学校に協力しようとする意識になる。
「小中高一貫教育」について、
・友人関係や保護者関係が大きく変わらないので、子どもも親も安心できる。
・千種の住民は地域の子育てに対して協力しようとする気持ちが強い。PTA 活動にも積極的に出てきてくれる。それは小学校から高校まで言えることで、学校に出ていく機会はとても増えるが、苦にはなっていない。子どものために親が学校に協力するのは当たり前という考えが基本的に地域にあると思う。
○ＰＴＡ、千種町商店街連合会、野球部保護者会などの模擬店の出店から、学校運営に対する、保護者地域の参画や協力体制があることが伺えた。
○地域や保護者の方の会話の中に、生徒の成長を話題にしている姿があった。
○高校生の舞台での出し物がたまらなく愛おしい様子で、生徒のセリフや演技の一つひとつに、笑いやうなずき、拍手で応えて温かく見守る地域のお年寄りの姿が観客席で見られた。
○普段から、千種高校の生徒・教職員が、様々な地域貢献活動やその他の行事・活動で地域に出かけて関わることが多くなっており、そのことが「開かれた学校づくり」に繋がっていると考えられる。
○宍粟市教育振興会から年間 80 万円（合併前は 150 万円）の援助を受けていることで、他の高校では出来ない手厚い教育活動を可能にしている。

［改善点および方策例］

【来校者に対する配慮を考えた取組を図る。】

△お年寄りの中には、後ろの観客席からステージ発表の様子が見えにくい方もおられるので、前の方に座席を用意し、生徒または PTA 役員がその座席まで案内し観覧していただくことで、生徒の発表の様子をよく見ていただけることが考え~~られ~~る。
△舞台発表のスポットライトが、観客席前の中央部分に設置されていて舞台が見えにくかった。スポッ

トライトは、観客席の後ろに設置する方が望ましいと考える。

7　幼小中高の連携の状況

評価基準

・幼中高との連携、及び一貫教育推進の組織体制づくりが進められ、相互に信頼関係がある。
・小中一貫したカリキュラムを作成し、授業づくりや改善を進めている。
・教職員間で実態把握がなされ、目標の共通認識のもと一貫性ある指導が行われている。

指　　標

指標１　幼小中高一貫教育の目標が明確に示されている。
指標２　連携した教育活動がカリキュラムに位置づけられ、実践されている。
指標 3　教職員間での一貫教育における研修体制がとられ、具体的な共通実践、指導等が行われている。

［良かった点］

【学校間連携の取組が推進されている。】

○園小中高一斉オープンスクールデーにすることで、保護者にとっては一日で各学校の様子が見ることができるよい機会になっていると考えられる。
○文化祭の午後の部に中学校吹奏楽部演奏や中高連携ステージを設けるなど、中高連携の交流が図られている。
○中高連携美化活動、中高連携体育大会、中高連携マラソン等、連携型中高一貫教育の特徴を活かし、交流を通じた取り組みが定着している。
○中高連携の取り組みにより、中学校時代から高校に親しんでいることで、高校入学後もすぐに高校生活に馴染むことが出来ていると考えられる。
○高校教員が中学校の授業に出向いたり、夏休みなどの長期休暇に特別授業をするなど、交流だけでなく学習活動での連携にも取り組んでいる。

［改善点および方策例］

【学校間連携に向けた取組を一層推進させる。】

△生徒数が減少する中で最大限の教育効果が見込まれる学校行事のあり方(小学校の学習発表会との抱き合わせなど)を検討する必要もあると考える。

8　特別支援教育の状況

評価基準

・特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習が適切に行われている。
・　個別の指導計画や教育支援計画が作成され、特別支援教育を受ける児童生徒のための指導が適切に行われている。

指　　標

指標１　特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習が適切に行われているか。
指標２　医療、福祉など関係機関との連携が適切に図られているか。
指標３　校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名や校内研修の実施等、特別支援教育のための校内支援体制が適切に整備されているか。
指標４　個別の指導計画や教育支援計画が適切に作成されているか。

［良かった点］

【配慮を要する生徒の支援に向けた体制づくりがなされている。】

○アクティブコースの和太鼓演奏に一生懸命に取り組んでいる生徒の姿を見ることができた。
○特別教育支援員が２名配置されていることによって、特別な支援が必要な生徒に対してきめ細かい支援が可能になっていると考えられる。
○高校生生活になじめるように、発達障害や不登校など特別な支援が必要な生徒に対して、中学校段階から多くの教員が丁寧に時間と労力をかけて支援を行っている。

［改善点および方策例］

【今回の訪問では分かりませんでした。】

＜要　　旨＞

【授業（文化祭）の状況】

○全体的に落ち着いた雰囲気の中で文化祭が行われていた。発表及び鑑賞する生徒の態度が大変よかった。教職員も少ない人数にも関わらず、来校者にそのことを感じさせない運営がなされていた。学校・家庭・地域が一つになって文化祭を盛り上げようという一体感が感じられた。広い体育館をゆったり使い、プログラム構成も時間的余裕を持たせ、小規模校の強みを活かした文化祭であると感じた。
来年度に向けて、来校者の立場に立った展示スペースの在り方についての検討の余地もあると考える。

【生徒の状況】

○男女とも制服の着こなしがきちんとしていて清潔感がある。また、廊下等で出会った多くの生徒と気持ちよく挨拶を交わすことができるなど、生活規律の定着が図られていると感じた。舞台では一生懸命に発表に取り組み、鑑賞する態度も落ち着いていた。また盛り上げる場面でも節度を持って協力する姿が見られた。生徒と教職員が親しく話している様子を多くの場面で見ることができ、生徒と教職員の信頼関係を感じた。
今後、同世代との学びを共創する場づくりや、生徒個人の目標を高く持たせることによる意欲の喚起などに取り組むことが必要であると考える。

【教職員の状況】

○文化祭では生徒の主体性を尊重し、生徒の実態に即した指導が行われていた。少ない教職員数のため、一人が複数の役割を受け持っていると思われるが、フットワーク軽く協働する場面を見ることができた。また、生徒や来校した卒業生にしっかりと関わる姿も観察できた。
新任の教職員が半数以上を占めていることから、特に若手教員の資質能力向上に向けた取組を、全校体制で推進させる必要があると考える。

【学校の管理運営等の状況】

○学校経営の重点の１つである「保護者や地域と連携して開かれた学校づくりを推進する」について、地域から学校に対して多くの支援をいただける関係にあることを見ることができた。このことが、学校運営の大きな力になっていることを感じた。学校長が開会式の挨拶の中で、地域の支援に対する感謝の言葉を述べ、地域や保護者の方が運営されている模擬店等を訪れてお礼の声をかける姿が見られた。日頃から、地域とともに歩む高校のトップとしてリーダーシップを発揮していることが伺えた。

【施設・設備の状況】

○清掃がよく行き届いており、来校者が気持ちよく過ごせる環境が整えられていた。体育館に関しては安全な環境が整備されていた。校舎についても耐震化の対策が行われていた。
来年度に向けて、来客用の校内案内標識を設置する等、来客者の立場に立った環境整備を図ることができればよいと考える。

【保護者・地域との連携】

○ＰＴＡ、千種町商店街連合会、野球部保護者会などの模擬店の出店から、学校運営に対する、保護者・地域の参画や協力体制があることを見ることができた。宍粟市教育振興会から年間 80 万円（合併前は 150 万円）の援助を受けていることで、他の高校では出来ない手厚い教育活動を可能にしていることも強みである。
来年度に向けて、お年寄りの方の席を前の方に用意する等、来校者に対する配慮を考えた取組ができればなおよいと考える。

【幼保小中高の連携と一貫した取組の推進】

○園小中高一斉オープンスクールデーにすることで、一日で各学校の様子が見ることができるよい機会になっている。文化祭の午後の部に中学校吹奏楽部演奏や中高連携ステージを設けるなど、中高連携の交流が図られている。中高連携の取り組みにより、中学校時代から高校に親しんでいるため、高校入学後もすぐに高校生活に馴染むことが出来ていると考えられる。
今後、生徒数が減少していくことが想定される中で、最大限の教育効果が見込まれる学校行事のあり方についても検討する必要があると考える。

【特別支援教育の状況】

○特別教育支援員が２名配置されており、特別な支援が必要な生徒に対してきめ細かい支援が可能になっていると考えられる。文化祭では、アクティブコースの和太鼓演奏に、一生懸命に取り組んでいる生徒の姿を見ることができた。

＜総　評＞

落ち着いた雰囲気の中で文化祭を参観することができた。生徒・教職員・家庭・地域の距離が近く、小規模校の良さを十分に活かした文化祭であった。「保護者や地域と連携して開かれた学校づくりを推進する」という学校経営の重点項目についても、教職員によく浸透しており、意欲的に教育活動に携わっていることが分かった。今後も、地域とともにある高校として、地域から信頼される学校づくりを進展させることによって、生徒がさらに成長できる取組を推進していきたい。